森林と人を活かす知恵 105

インセクトホテル（昆虫ホテル）の紹介
森の野生動物と出会う「エンカウンタースペース」として

岐阜県立森林文化アカデミー　講師●谷口 吾郎

まずは「インセクトホテル」で検索！

画像検索サイトで「インセクトホテル」とか「バグホテル」と入力してみてください。すると、ちょっと変わったオブジェ？がたくさん出てきましたね。見ての通り、人間のホテルではありません。

これらは昆虫や小動物たちの営巣環境や生息環境を意図的につくって呼び寄せる仕掛けなのです。日本では「昆虫ホテル」「蜂宿」などさまざまな呼び名で、主には環境学習施設や学校で見かけることがありますが、まだまだマイナーな存在です。

モリノス広場に作成中のインセクトホテル（通称：ムシノス）

呼びたい昆虫の生息環境を整える。

例えば…、篠竹やアシほどの筒状のものを雨が当たらない場所に水平に吊り下げておくと、こうした孔に巣をつくるドロバチやハキリバチなど借孔性のハチ類（以後、竹筒バチ）が自然に集まり利用します。

コケや枯草が詰まった竹筒は竹筒バチが営巣したサイン。親バチが産卵後に詰めたもの。竹筒バチは単独で行動するハチで、毒性も低くおとなしいため観察に適しています。昔の家屋は竹やカヤを多用していたため竹筒バチなどの住処になっていたそうです。

ヨーロッパではメジャーな存在

このインセクトホテル、ドイツやイギリスなどでは公園や個人庭で普通に見られるほど広く浸透しているようです。ホームセンターなどでもお洒落なキットが販売されているとのこと。デザイン性にも富んでいて、楽しみながら生活に取り入れている様子がうかがえます。

なぜ、わざわざ昆虫を呼び込むの？

インセクトホテルをつくる理由はいくつかあります。まずは園芸的な活用です。街中など生物多様性に乏しい環境に設置することで、竹筒バチをはじめ多様な生物を誘いこみ、花粉媒介や生態系のバランス調整が期待できます。

エンカウンタースペースとして

別の理由としては、環境教育的な活用があります。森や公園で「あの昆虫に出会いたい！」と思っても期待通りに出会えないことがほとんどです。その不確実性こそが自然の良さとも言えますが…。そんなときインセクトホテルがあると、そこそこの確率で目当ての昆虫やその痕跡を観察できます。観察しやすくすることで、その昆虫の生態や環境との関係性などに興味と理解を深めてもらうきっかけになります。このように野生動物たちと人が出会いやすく工夫した空間を「エンカウンタースペース」と言います。エンカウンタースペースには、インセクトホテルのほかにも、野鳥の巣箱やバードサンクチュアリをはじめ、ほ乳類、爬虫類など目的に応じて、いろいろな仕組みが考えられます。

モリノス広場にも新たに作成中

実は森林文化アカデミー内でも、数年前からインセクトホテルを作成していましたが、昨年夏に森林総合教育センター「モリノス」がオープンしたのを機に、今年、改めて学生や先輩教員と共にリニューアルを進めています。多くの来場者に関心を持ってもらえるように設置場所やデザイン、解説の情報量などにも工夫しています。モリノスに来た際には、是非、どんな生物が利用しているかのぞいてみてください。

森と人との良好な関係を考えたとき、森に住む野生動物と良い条件で出会えるチャンスは貴重です。みなさんの近くの森の入口や公園、学校などにもインセクトホテルなどのエンカウンタースペースをつくり、生物を観察する機会を設けてみてはいかがでしょうか。

「ムシノス」作成は森林環境教育専攻の授業でしたが、アカデミー内の木材や素材を用い、林業、木工、木造建築の教員や学生、モリノススタッフなど多くの方に協力いただき作成しています。各分野の専門家がいるアカデミーはやっぱりすごい。感謝!

●詳しい内容を知りたい方は　TEL（0575）35-2525 県立森林文化アカデミー まで